

サクラバクシンオー

38,112票



1994年 スプリンターズS(GI)

JRAレコード&連覇で有終の美

1990年にGIとなって以降では初のスプリンターズS連覇を達成。現在でもしばしば“史上最強スプリンター”と呼ばれるサクラバクシンオーだが、現役時代の3歳春は当初、クラシックを目指していた。しかしスプリングSの12着大敗を機に短距離路線へ。重賞初制覇は中山芝1200mのGIII・クリスタルCだった。

それ以降、徐々にスプリンターとしての素質を磨いていったサクラバクシンオーは4歳、前年6着の雪辱を期して、当時は12月に行われていたスプリンターズSへ。安田記念と天皇賞(秋)を制してきたヤマニンゼファー、前年の覇者ニシノフラワーを、直線で突き放して2馬身半差の完勝を収め、ついに初のGIタイトルを獲得した。

翌1994年、5歳を迎えたサクラバクシンオーは、ダービー卿チャレンジT(当時は芝1200m)の完勝、JRAレコード(当時)でのスワンズ制覇など1400m以下で圧倒的な強さを見せるとともに、安田記念と

毎日王冠の4着、マイルチャンピオンシップでノースフライトに食い下がった2着など、距離の壁にも果敢に挑む姿でターフを沸かせた。

そして迎えた引退レースのスプリンターズS。この年から国際競走に指定され、外国馬はG1ブリーダーズCスプリント2着から臨むアメリカのソビエトプロブレムなど3頭が出走。日本馬もアメリカ産の3歳馬エイシンワシントンら好メンバーが揃う中、サクラバクシンオーは圧巻の走りを見せた。好位から抜け出すと、みるみる後続との差を開き、最後は追い込んだビコーベガサスに本競走がGI昇格後、現在も最大着差タイとなる4馬身差。勝ちタイムの1分07秒1は当時のJRAレコードだった。連覇で有終の美を飾ったサクラバクシンオーは、この年、JRA賞最優秀短距離馬を受賞した。

引退後は種牡馬としてもショウナンカンパ、グランプリボス、ビッグアーサーなど短距離からマイル中心の活躍馬を輩出。史上最強スプリンターとは、まさにサクラバクシンオーのためにある称号といっても過言ではない。

第28回スプリンターズステークス(GI)

1994年12月18日 中山競馬場 1200m(芝・右・外) 晴・良 14頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	サクラバクシンオー	牡5	57	小島 太	境 勝太郎	R1:07.1	①	④③
2	ビコーベガサス	牡3	55	の場 均	柳田 次男	4	⑤	⑪⑩
3	キョウエイキーマン	牡5	57	松永 幹夫	山本 正司	クビ	⑬	⑧⑤

第27回スプリンターズステークス(GI)

1993年12月19日 中山競馬場 1200m(芝・右・外) 曇・良 14頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	サクラバクシンオー	牡4	57	小島 太	境 勝太郎	1:07.9	②	③③
2	ヤマニンゼファー	牡5	57	柴田 善臣	栗田 博憲	2 1/2	①	⑤④
3	ニシノフラワー	牝4	55	河内 洋	松田 正弘	3/4	③	⑧⑧

サクラバクシンオー Sakura Bakushin O 1989年4月14日生 牡 鹿毛

父:サクラユタカオー 母:サクラハゴロモ 母の父:ノーザンテスト

生産:早来・社台ファーム 馬主:株式会社さくらコマース

通算成績:21戦11勝

主な勝ち鞍

1994年 スプリンターズS(GI)、スワンズ(GII)、

ダービー卿チャレンジT(GIII)

1993年 スプリンターズS(GI)

1992年 クリスタルC(GIII)



1994年スワンズ(GII)

メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。
1位:サクラバクシンオー(38,112票)

2^位 **ロードカナロア** 32,235票



芝1200^{メートル}戦では国内外で通算15戦11勝、うちGI勝ちは「5」。国内最終戦となった2013年のスプリンターズSを圧倒的人気で制し、前年に続く2年連続の勝利を飾った。

3^位 **グランアレグリア** 27,439票



芝1200^{メートル}戦は通算2戦1勝。芝1600^{メートル}GI5勝という“マイルの女王”の唯一のスプリントGI制覇が2020年の本競走。4コーナー後方15番手から追い込んでの勝利であった。

4^位 **デュランダル** 14,132票



芝1200^{メートル}戦は通算9戦4勝で、うちGIは1勝。2003年の本競走を4コーナー14番手からスパートし、“短距離女王”ピリヴをハナ差交わして優勝した。

5^位 **カレンチャン** 10,862票



芝1200^{メートル}戦は通算14戦7勝で、うちGIは2勝。2011年に連勝街道を突き進むと、5連勝で本競走を制した。これが自身のGI初制覇。



特設サイト